

その他紙製容器包装について

福田三商株式会社

福田三商株式会社の紙製容器包装関連業務

・名古屋市の委託業務（選別）	307t/月
・日本容器包装リサイクル協会の選別事業者	
名古屋市の保管場所（福田三商）	199t/月
その他	270t/月
計	469t/月

名古屋市の委託業務分は選別事業者の選別まで一貫して行っています。

1. 分別

(1) 現状

1) 自治体

選別

分別基準適合物	分別基準不適合物	
	資源	ごみ

圧縮梱包

2) 再商品化（指定法人（財）日本容器包装リサイクル協会）

引取輸送

解梱

選別

製紙原料	製紙原料以外
------	--------

圧縮梱包

(2) 問題点

選別業務を自治体業務と再商品化業務と2回に分けて行う

圧縮梱包業務を自治体業務と再商品化業務と2回行う

(3) 提案

選別業務を自治体業務から再商品化業務まで一貫して行う

選別、圧縮梱包、運送のコストが無くなる

自治体の選別コストが負担増になる為、再商品化費用を自治体に支払う

2. 品質

(1) 現状

再商品化選別において現在製紙メーカーが使用している原料品質まで選別を行っている

(2) 問題点

紙カップ、ティッシュ箱（ビニール）等の除去等を行う為に選別手間がかかる

(3) 提案

製紙メーカーの使用可能最低限度までの選別にする

製紙メーカーは使用する為の設備、歩留ロスが大きくなる等、製紙メーカーの負担が増加するが、通常古紙より価格設定を低くし使用メリットを出す。

新価格体系にする為、製紙メーカーと話し合い、新しい商品名を設定し商品規格も設定する。

3. 収集

(1) 現状

紙製容器包装のみを収集

(2) 問題点

従来は可燃ごみと一緒に収集していた為、分けて収集する事によって自治体収集費用が増加する

(3) 提案

既存の回収ルート（資源回収、自治体分別回収等）に乗せて収集する

紙製容器包装はかさも大きく、形状も不揃いの為、既存回収ルートの収集費用は増加になる再商品化費用の中から既存回収ルートへ助成金を支給する。

- ・ 定期的（6ヶ月1回等）に既存回収ルートの収集したものを分析しその結果に基づいて支給

その他紙製容器包装の流れ

福田三商株式会社

